



一般質問

Q & A



創世会 寺田 幸弘

台風24号の被害経験を生かした今後の対応は

Q 今回の停電で防災センターや避難所が暗い中で対応したところがあったと聞く。非常電源確保は早急に予算措置をしてお対応すべきと思うがいかがか。また、莫大な修理費用がかかる大須賀第二排水機場本体ポンプ2台の浸水故障原因と管理体制や今後の対応を伺う。

資機材整備の支援や自家発電設備を検討する

A 全ての広域避難所に非常用発電機を整備しており、自主防災会には、防災資機材の補助制度があり、97%が発電機を整備しています。今後も資機材整備を支援し、継続的な燃料補給体制の確立に努めます。

大須賀第二排水機場のポンプについては、停電の長期化により、ポンプ室外の水位が高い状態が続いたため、

ポンプの空気弁に異物が挟まり、そこからポンプ室内に水が浸入し、モーターが水没して故障しました。

今後の管理体制は、平成32年度から一部事務組合体制から各市間の業務委託方式に移行し、市が主に管理します。専門機関に総合的に判断してもらい、地元水利組合とも協議をしていきます。また、自家発電設備の設置も検討しています。

職員の働き方改革推進を

Q 今後、市長は、職員のため、具体的にとどのよう働き方改革を進めていく方針であるか考えを伺う。

ワークライフバランスの実現を図る

A 引き続き、業務の見直しや効率化に取り組んでいく必要があります。これらの取り組みを通じて、職員のワークライフバランスの実現を図り、心身ともに健康で意欲を持った職員を増やし、市民サービスの向上につなげていきます。



共に創る掛川 鈴木 久裕

茶エンナーレは再考を

Q 平成29年度に行った第一回に対する評価が良好だったとしても、今後は形を変え、億円単位に迫るような巨費を投ずる大がかりな「茶エンナーレ」は、端的に言って、やめるのが妥当ではないか。

市民力を活かして2020年の開催を目指す

A 茶エンナーレ第2ステージは、市民や地域が主役となり、文化芸術を楽しむながら創り上げていく姿を目指しています。

平成30年10月も、市内各地で、お茶をテーマにした「市民プログラム」を行うなど、市民の芸術活動は大きな広がりを見せていますので、この市民力を活かして3年サイクルである2020年の開催を目指しています。

掛川駅前西街区公有地は、なぜ売却なのか

Q なぜ、いま、売却なのか。今回の売却計画は、国の認定を受けた中心市街地活性化基本計画や平成27年度市議会特別委員会の提言等と整合がとれていない。

さらなる中心市街地の賑わいを創出する

A 東街区再開発事業の一定の効果により、歩行者通行量の増加や空き店舗への出店数の伸びがみられるなど、西街区の利活用を進める条件も整いつつあります。東街区再開発事業との相乗効果を生み出し、さらなる中心市街地の賑わい創出と掛川市の中心市街地を中東遠圏域を牽引する原動力としていくため今回の考えにいたしました。また、提言とは全体的に整合が図られていると判断します。

【その他の質問事項】
・松ヶ岡整備事業について